

令和4年度学校評価アンケート集計結果(課題と今後の取組)

令和5年3月8日
川西市立桜が丘小学校

2学期末にご協力いただいた学校評価アンケートの結果を報告いたします。

学校評価は、年度初めに設定した教育目標やそれを実現させるための取組などについて成果と課題を確認し、今後の改善策を含めて次年度の教育課程の編成に生かすために学校が行う自己評価です。子どもたちの回答や保護者の皆さまからいただいた回答と教職員の回答を合わせ、この評価結果に基づいて学校運営や指導の方法等の改善につなげていきたいと考えています。

アンケートの結果（有効回答数 児童 343 保護者 295 教職員 22）

①肯定的回答（「そう思う」「どちらかというと思う」）の割合を達成度として表しました。

②また、設問ごとの回答を次のように点数化し、平均値を算出します。

そう思う：3点 どちらかというと思う：2点 どちらかというと思わない：1点 そう思わない：0点

③平均値によって、A・B・Cとして評価を集約しました。

A… 2.50～3.00 本校の教育活動に対する満足度が高いものとして、次年度に引き継ぐ。

B… 2.00～2.49 満足度は高いが、一部に課題がある。

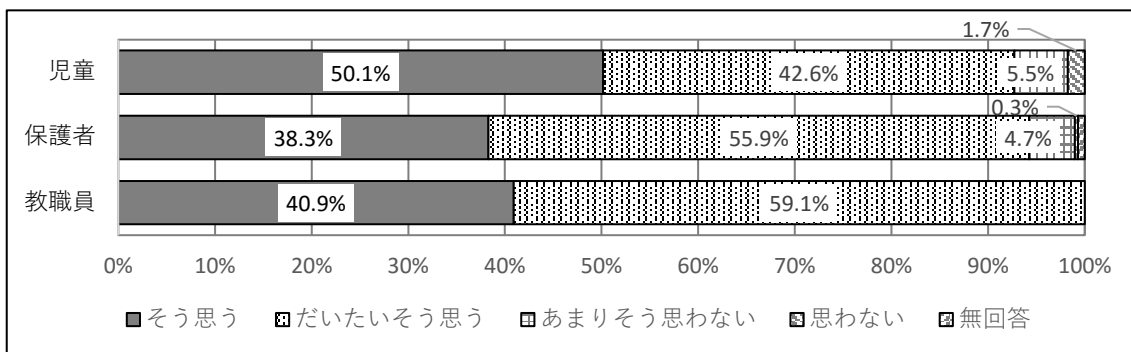
C… 0.00～1.99 次年度の課題として改善を図る必要がある。

【設問1】

〔児童〕 授業のルールを守って、発表し、しっかり人の話を聞いている。

〔保護者〕 学校は、一人ひとりの個性や学習の課題を把握しながら児童理解に努めている。

〔教職員〕 教職員は、一人ひとりの個性や学習の課題を把握しながら児童理解に努めている。



朝の学習や授業において「聞く」「読む」「書く」「計算する」の基礎・基本の力を身につけ、その力をもとに児童が主体的に学習に取り組むことができるよう、学習の場づくりと個に応じた指導に努めてきました。また、本年度は算数のいくつかの単元において、既習の事項がどの程度身についているか、その単元の内容にどの程度興味を持っているかなどを、学習レディネステストをとおして把握し、全体の指導や個別の指導に生かす取組を始めました。達成度も90%を超え、わずかですが、児童の達成度・平均値が昨年度に比べてさらにプラスであることから主体的に学習に取り組むことができていると判断しています。今後も基礎学力の定着と基本的生活習慣の習得を基盤とした学習指導、生徒指導の充実を図り、児童理解に努めていきます。

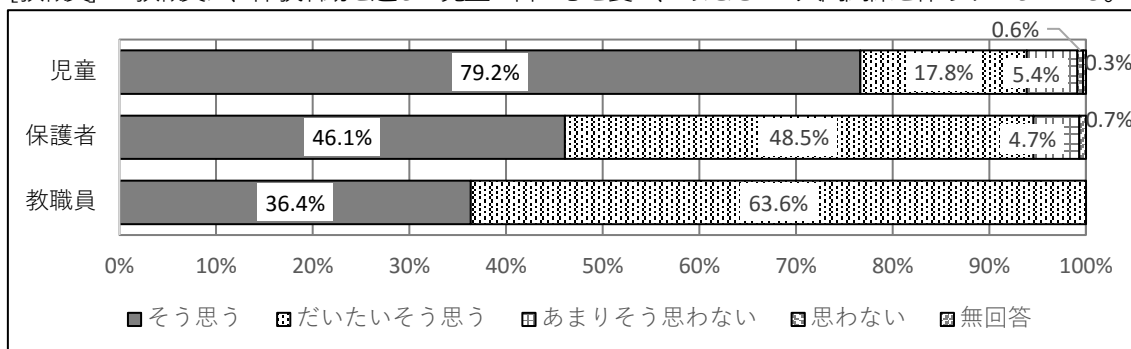
	児童	保護者	教職員
達成度	93%	94%	100%
平均値	2.41	2.32	2.41
前年度比	+0.02	+0.13	+0.09
評価	B	B	B

【設問 2】

[児 童] 体験活動に積極的に参加している。

[保護者] 学校は、体験活動を通して児童に自立心を養い、あたたかい人間関係を作ろうとしている。

[教職員] 教職員は、体験活動を通して児童に自立心を養い、あたたかい人間関係を作ろうとしている。



幾度となく押し寄せる新型コロナの波を受けて、全校児童が一堂に会する機会を設けることはなかなかできませんでしたが、自然学校や修学旅行などの宿泊的行事の再開、校外学習やゲストティーチャーを招聘しての体験事業など、年度当初の予定通り（一部行事を除く）実施することができました。「桜小まつり」など異学年集団での児童会行事も実施したことで、自主的に活動に取り組む機会を設けることができたことが児童の達成度に現れていると思います。今後も制約を受けることがあってもかもしれませんが、状況に合わせて積極的に体験活動の実施に取り組んでいきます。

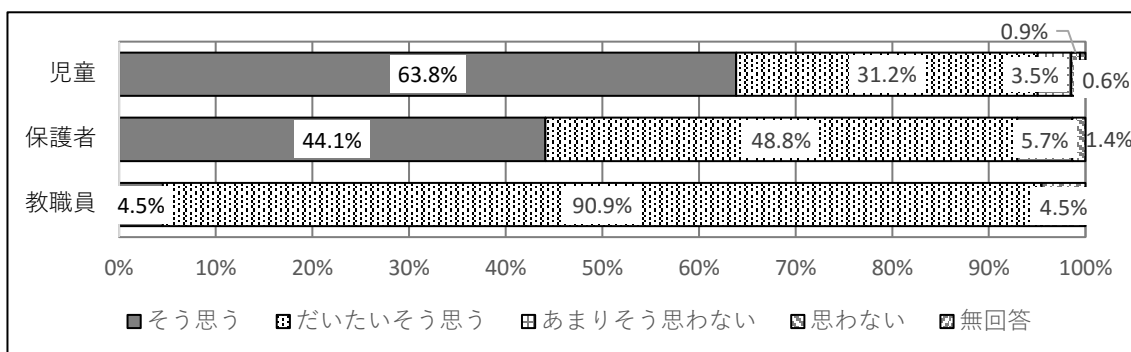
	児童	保護者	教職員
達成度	94%	95%	100%
平均値	2.70	2.40	2.36
前年度比	+0.07	+0.16	-0.09
評価	A	B	B

【設問 3】

[児 童] 学校の授業内容が理解できている。（わかっている）

[保護者] お子さんは、学校の授業内容が理解できている。

[教職員] 児童は、学校の授業内容が理解できている。



本年度は「自ら考え、仲間とともに学び合おう～子どもたちがつながる授業～」を研究テーマに算数科を中心として授業改善に取り組んできました。基礎学力の定着を基盤にして、児童が説明したりペアトークやグループトークで話し合ったりする場を積極的に取り入れ、主体的に学びに向かうことができるよう取組を進めてきました。児童の達成度や満足度は高いものの、ペアトークやグループトークをどの場面で取り入れるのが有効か、より内容を深めていくためにはどのような手立てが必要かなど、新たな取組を始めることによって生まれた課題は多く、教職員の評価が低くなった原因の一つと考えています。今後も「わかる」「楽しい」「参加したい」をめざした授業改善に取り組むとともに、一人一人の学習状況の把握に努め、主体的に学びに向かうことができるよう、学習指導の充実に取り組みます。

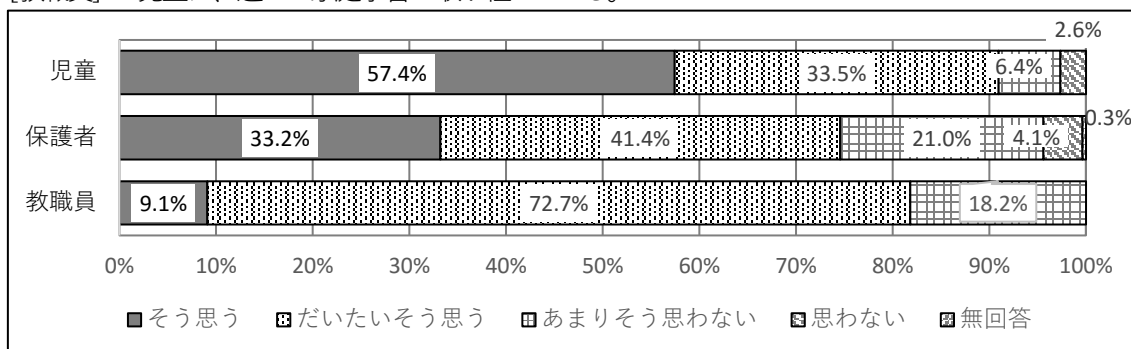
	児童	保護者	教職員
達成度	95%	93%	95%
平均値	2.57	2.36	1.95
前年度比	-0.02	+0.04	-0.09
評価	A	B	C

【設問 4】

[児 童] (宿題など) 進んで家庭学習に取り組んでいる。

[保護者] お子さんは、進んで家庭学習に取り組んでいる。

[教職員] 児童は、進んで家庭学習に取り組んでいる。



昨年と比べて、わずかですが、児童、保護者ともに達成度、平均値はプラスとなっています。2年前と比較すると徐々に伸びてはいますが、依然として児童の回答と保護者・教職員との回答に差が生じており、家庭学習の目的や意義を明確にしたうえで家庭学習の内容や量、方法など再度検討する必要があります。児童が主体的に家庭学習に進んで取り組むことができるよう支援するとともに、保護者の方への説明をていねいに行い、家庭学習における評価の方法や具体的な支援の仕方などをお伝えしていきたいと考えています。

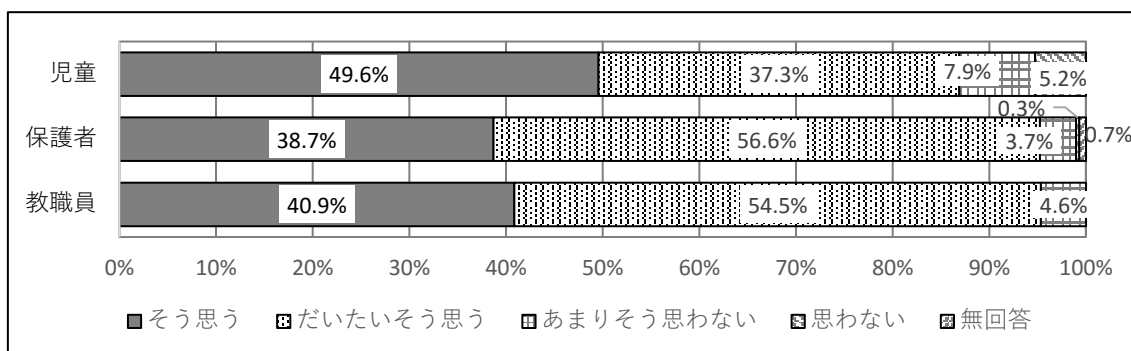
	児童	保護者	教職員
達成度	91%	75%	82%
平均値	2.46	2.03	1.91
前年度比	+0.02	+0.05	-0.32
評価	B	B	C

【設問 5】

[児 童] 学校では自分が大切にされている。

[保護者] 学校は、児童の人権を尊重し一人ひとりが大切にされるように努力している。

[教職員] 教職員は、児童の人権を尊重し一人ひとりが大切にされるように努力している。



昨年度の第三者評価において、児童の否定的回答が保護者・教職員より高いことを重く受け止めるべきとご指摘をいただいた項目です。学期ごとの生活アンケート調査に基づいた生活指導の充実や、月に一度、職員会議の中で、児童の情報を共有する場を設け、学級担任一人に任せるのではなく、学年団や全ての職員で児童に関わる体制を大切にしてきました。児童が大切にされていると感じ、安心して学校生活を送るためには、「自己有用感」を育むことが大切です。児童一人一人の自己有用感を高めていくことができるよう、引き続き教科等の指導や生活指導の充実に向けて取組を進めます。

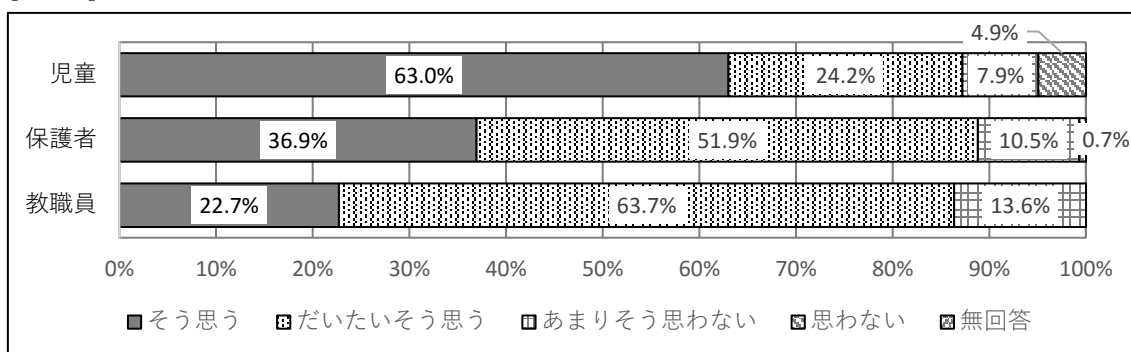
	児童	保護者	教職員
達成度	87%	95%	95%
平均値	2.31	2.33	2.36
前年度比	+0.08	+0.1	+0.14
評価	B	B	B

【設問6】

[児 童] 学校のことを家で話している。

[保護者] 学校は、子どもたちの様子がわかるように情報発信をして、開かれた学校づくりに努力している。

[教職員] 教職員は、子どもたちの様子がわかるように情報発信をして、開かれた学校づくりに努力している。



平素の教育活動の様子や学習のねらいなど、学校ホームページ等を活用して情報の提供に努めてきました。昨年度の年間総アクセス数は165,973件、本年度のアクセス数については、2月同時期と比較して27,045件(+16%)増となり、多くの方に閲覧していただくことができました。

今後も、保護者の方が必要とする情報の内容を把握するとともに、学級・学年通信、学校ホームページやメール連絡網「ミマモルメ」を活用して、さらに情報の発信を充実させていきたいと考えています。

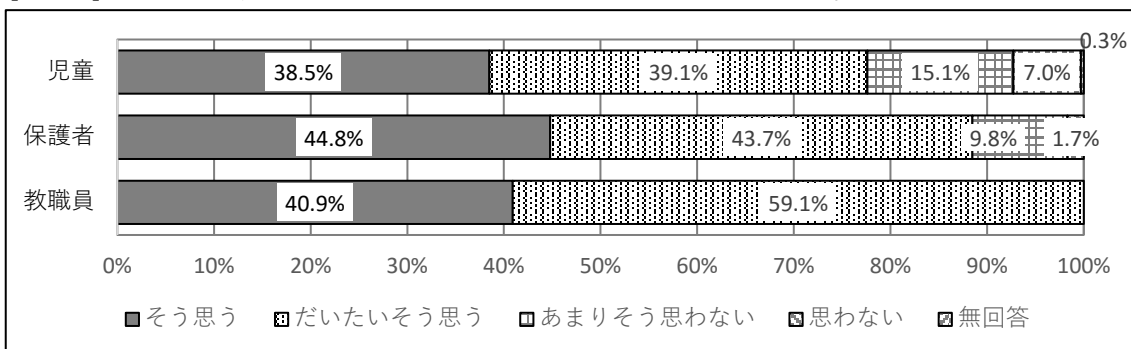
	児童	保護者	教職員
達成度	87%	89%	86%
平均値	2.45	2.25	2.09
前年度比	+0.01	+0.18	-0.23
評価	B	B	B

【設問7】

[児 童] 困ったことがあったら学校の先生に気軽に相談できる。

[保護者] 学校の教職員に、お子さんのことを気軽に相談できる。

[教職員] 教職員は、保護者の相談に気軽にに対応できる体制を整えている。

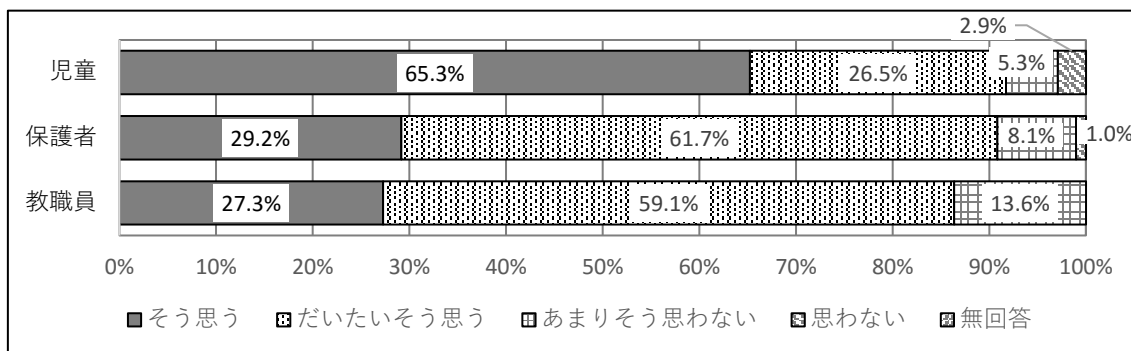


昨年度の第三者評価において、児童・保護者と教職員の認識の間にズレがある点が指摘をいただいた項目です。昨年度と比較して、特に保護者の肯定的回答が達成度で10%、満足度でプラス0.24に増加しています。このことは、新型コロナウイルスによる制限が緩和されたことによって昨年度に比べて参観日や懇談会など来校いただく機会が増えたことにより、学校との距離を近くに感じることができたと考えています。児童については、わずかにプラスとなりましたが、依然、気軽に相談しにくいと感じている児童があることを重く受け止めなければなりません。来年度から設置する校内フリースクールや児童支援担当教員なども含め、担任以外の教員にも相談できる体制を整えるなど児童の気持ちに寄り添った取組を進めていきます。

	児童	保護者	教職員
達成度	78%	88%	100%
平均値	2.09	2.32	2.41
前年度比	+0.04	+0.24	-0.05
評価	B	B	B

【設問8】

- [児 童] 自分の健康に気を配り、体を大切にしようとしている。
- [保護者] 学校は、児童の発達段階に応じた保健教育を実施し、健康や身体を大切にしようとする意識がもてる指導をしている。
- [教職員] 教職員は、児童の発達段階に応じた保健教育を実施し、健康や身体を大切にしようとする意識がもてる指導をしている。

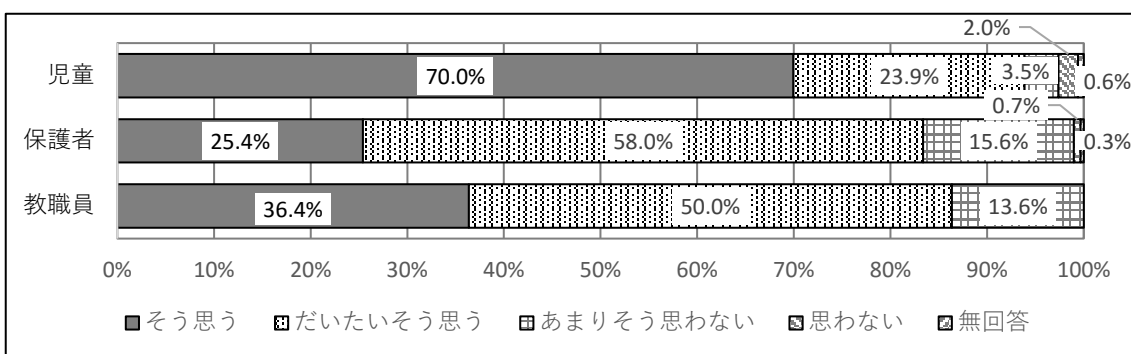


身体測定や毎月の「ほけんだより」、学校の掲示板を利用して、児童に健康への関心を高める取組を本年度も継続しています。特に今年度は、掲示板を活用して、一年間の月目標が一目でわかるように工夫し、心と体の健康について意識する機会を増やす取り組みをしました。また、保健の授業を充実させるとともに、機会をとらえて学級担任や養護教諭等から感染症予防や規則正しい生活の重要性、心の健康などの指導を行ってきました。児童が自分の健康に気を配り、心と体を大切にしようとする態度や意欲をこれからも高めていくことができるよう、保健指導の充実を図るとともに、必要な情報が提供できるよう今後も指導や啓発の工夫改善に努めます。

	児童	保護者	教職員
達成度	92%	91%	86%
平均値	2.54	2.19	2.14
前年度比	-0.01	+0.15	+0.05
評価	A	B	B

【設問9】

- [児 童] 登校下校中や校内での安全に気を付けている。
- [保護者] 学校は、危険から身を守ることができるように安全教育に努めている。
- [教職員] 教職員は、危険から身を守ることができるように安全教育に努めている。



本年度も継続して「廊下を歩こう」ということを徹底しました。人に注意されるからではなく、なぜそうしなければならないかを考えて行動することが、他者の安全を守ることになり、自分の身を守ることにもつながるということを指導してきました。また、避難訓練を休み時間に設定

	児童	保護者	教職員
達成度	94%	83%	86%
平均値	2.54	2.19	2.14
前年度比	±0	+0.02	-0.05
評価	A	B	B

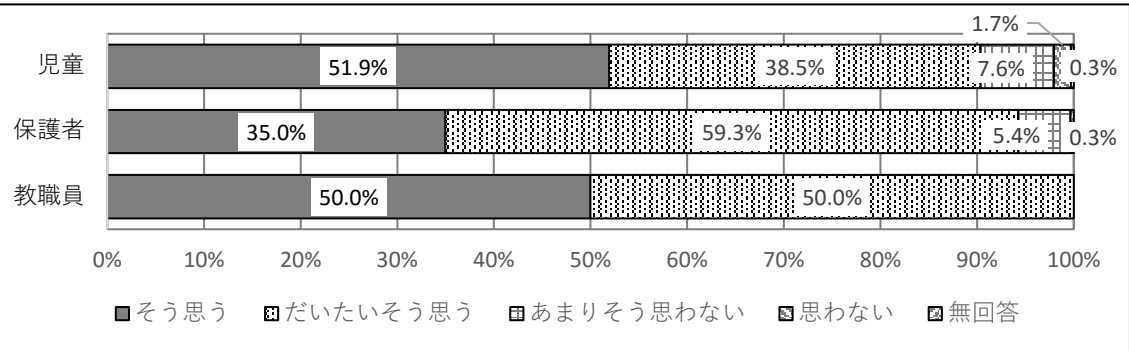
し、教員が近くにいない状況下での訓練を実施するなど、様々な状況を想定して実効性の高い避難訓練を実施するとともに、消火訓練や不審者への対応訓練をはじめ教職員の危機対応能力の向上に努めてきました。登下校の安全においては、学校、PTA、安全協力員、警察、市教育委員会と連携して見守り活動を行ったり、通学路の危険箇所調査を行い、安全点検と安全確保を図る取組をしたりしています。今後も防災・安全教育には力を入れていきたいと考えていますので、保護者の方にも、子どもたちが安全に登下校したり、危険から身を守ったりすることができるよう可能な範囲で見守り活動をしていただいたり、家庭で防災・安全についてお話をいただいたりするなど、引き続き、ご家庭での取組もお願いします。

【設問10】

[児 童] 学校のきまりを守っている。

[保護者] 学校は、児童の人権に配慮した生活指導に努めている。

[教職員] 教職員は、児童の人権に配慮した生活指導に努めている。



月に一度、全職員で児童の情報交流会を継続するとともに、児童支援担当教員のコーディネートのもと、生徒指導事案に対しては組織的に取り組み、早期発見・早期対応に努めてきました。昨年度と比較して、保護者、教職員の達成度、満足度は向上していますが、肯定的な回答が90%に達しているとはいえ、わずかながら児童の平均値がマイナスになっています。満足度は高いが一部に課題が残るという児童の気持ちを重く受け止め、日頃から児童一人一人の言葉に耳を傾け、その気持ちを敏感に感じ取ろうとする姿勢を大切にするとともに、教職員一人一人が人権感覚を高め、人権尊重の精神を基底に据えた教育観を確立するよう研鑽を積み上げていきます。

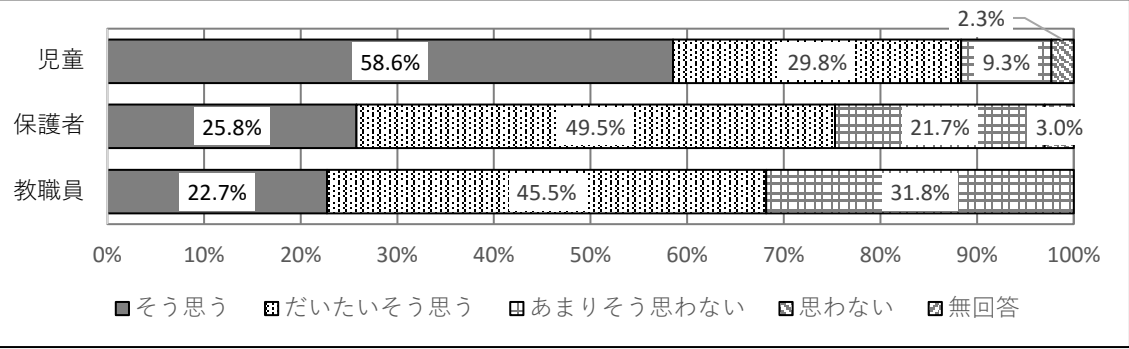
	児童	保護者	教職員
達成度	90%	94%	100%
平均値	2.40	2.29	2.50
前年度比	-0.07	+0.12	+0.18
評価	B	B	A

【設問11】

[児 童] 家族や地域の人に進んであいさつをしている

[保護者] お子さんは、家族や地域の人に進んであいさつをしている。

[教職員] 児童は、家族や地域の人に進んであいさつをしている。



2年前から「廊下は歩こう」「あいさつをしよう」ということを、年間を通して児童に意識づけをしてきました。児童会でも、あいさつについて啓発動画を作成し、児童朝会で全校児童に呼び掛けるなど主体的に活動しています。朝の登校指導にあたっている教職員からもあいさつがよくなるようになったという報告が聞かれるようになりました。あいさつをしましょうと指導する一方で、見知らぬ人に対してはまず警戒という相対する姿勢を児童に求めているのが現状で難しい一面もありますが、あいさつを交わすことで、人と人とのつながりを感じることができるのも、あいさつの良いところです。あいさつをする・しないは、個人が自由に決めていいことです。また、あいさつをしなければならないと強く求めることも今の時代にはなじまないかもしれません。しかし、あいさつを交わすことで人と人がつながり、そのつながりを広げていくことは、児童にとって地域とのきずなを深めるいいチャンスとなり、地域のきずなは、児童の安全を高める上でとても大切なものだと考えています。今後も、家庭や学校、地域の顔見知りの方へのあいさつについて引き続き指導するとともに、桜小コミュニティ協議会やPTAと連携した地域ぐるみの取組も含め検討していきます。

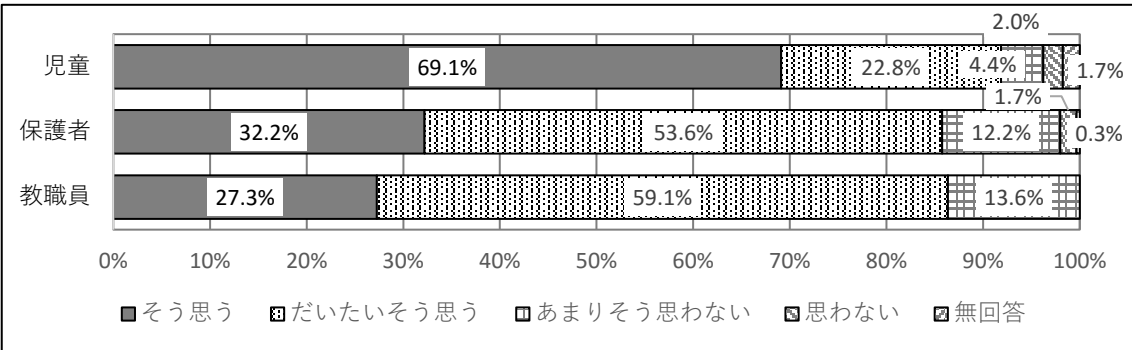
	児童	保護者	教職員
達成度	88%	75%	68%
平均値	2.45	1.98	1.91
前年度比	-0.02	+0.04	+0.18
評価	B	C	C

【設問12】

[児 童] 学校で、保護者や地域ボランティアさんから教えてもらう学習は楽しい。

[保護者] 学校は、保護者や地域ボランティア等、地域の環境や人材の積極的な活用に努めている。

[教職員] 教職員は、保護者や地域ボランティア等、地域の環境や人材の積極的な活用に努めている。



昨年度に比べてわずかにマイナスとなっていますが、生活科や総合的な学習、自然体験事業等のゲストティーチャーや図書ボランティア、放課後子ども教室など、保護者や地域の教育力に支えられて学びを深めることに児童は高い満足度を示しています。教科等の学習に関することや、言語、文化、スポーツ、プログラミングなど多種多様で専門的な知識や技能をお持ちの地域の方の力で、子どもたちの学びはより深く豊かなものとなっています。また、地域の大人の方に認められたり、ほめられたりすることで、子どもたちは自信をつけ、自己肯定感を高めることにつながっています。今後も学校、家庭、地域の連携を深めながら地域とともにある学校づくりをめざし、地域のリソースを生かして子どもたちの学びがより深くより豊かになるよう努めていきます。

	児童	保護者	教職員
達成度	92%	86%	86%
平均値	2.57	2.16	2.14
前年度比	-0.03	+0.09	+0.09
評価	A	B	B